

音源の比較試聴(29) —ブルックナーの交響曲 4 番—

1. 始めに

前報(28)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、マスター音源は違いますが、アナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は記を使用します。

LONDON SOL 1003-4

交響曲第 4 番変ホ長調《ロマンティック》

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

WARNER CLASSICS 0190296731082

交響曲第 4 番変ホ長調《ロマンティック》(ハース版)

セルジオ・チェリビダッケム指揮ミュンヘンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

交響曲第 4 番変ホ長調《ロマンティック》WAB 104 (1878/80 年稿、ハース版)

ヤニック・ネゼ=セガン指揮ルツェルン祝祭管弦楽団

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、2 枚とも過去の名盤であり、妥当と思われるイコライザーカーブ、位相、第 4 時定数で聴いていきます。

ベーム指揮ウィーンフィル盤は、1973 年の録音ですが、ウィーンフィルらしく全般

にソフトで優美な演奏であり、弦の弱音が美しく、フォルテッシモでも肌理の細かさが維持されています。

チェリビダッケ指揮ミュンヘンフィル盤は、1988年の録音で2021年の再販です。最近の再販だけあって盤室はよく、音質は明晰であり、一音一音がくっきりとしています。チェリビダッケらしく音の協和にこだわりの強い演奏です。

STAGE+のネゼ=セガン指とルツェルン祝祭管弦楽団の演奏のPC経由の再生は、STAGE+を楽しむ(323)で報告のとおり、2025年11月の最新収録で印象も良かったので選択しました。上記のアナログには、音の滑らかさでは及ばないものの、音像がくっきりと立ち、解像度も十分でダイナミックレンジが取れています。

4. まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、配信もアナログに肩をならべて聴けるところまでできています。

以上